

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1270400623		
法人名	延寿グループ株式会社		
事業所名	アットホームケア千城台		
所在地	千葉県千葉市若葉区千城台東2-20-1 (電話) 043-236-0025		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月29日	評価確定日	5月3日

【情報提供票より】平成21年2月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	12 人	常勤	4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 ~ 38,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000円 オムツ代等実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(2年償却)	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,450 円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福元クリニック 齊藤労災病院 堀田医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千葉都市モジュール千城台駅に程近い住宅街の一角に位置し、一般住宅を改造したホームである。壁や階段に木材が使われており、温かみと懐かしさが感じられる内装である。通常のユニット定員より3名少ない定員6名の入居者は、それぞれ落ち着いて過ごしている。入居者と職員が共に食事をするには少し手狭な居間ではあるが、そのスペースを最大限に生かし、触れ合い、自然に笑顔あふれる家庭的な雰囲気を作り出している。入居者は近くのショッピングセンターに外出したり、散歩中にとれたて野菜などをもらったり、近所の人がお茶を飲みに来るなど、地域との交流が図られている。最近では地域の認知症介護などの相談窓口としての役割も担っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、職員を育てる取り組みのなかで、職員個々の目的を明確にした個別の研修計画が立案されるよう期待された。運営推進会議やホーム会議等で話し合われ、積極的な意見交換がされていたが、根拠に基づく段階に応じた育成をする仕組みの構築には至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を理解し、自己評価は職員の意見を聞きながら取り組まれている。また、自己のサービスを見直しつつ、サービスの質の向上を図る仕組みとして組織に根付いている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、地域防災や外部評価の意義、結果、その取り組みなどを報告し話し合いをしている。そこで得られた意見、助言をサービスの向上に生かしている。参加者も徐々に増え、さらに多角的に意見がもらえるようになってきている。また、市町村担当者へはホーム行事への参加を呼びかけ、関わりの機会を増やす取り組みがされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「アット・ホームケア通信」を発行し、家族に送付している。また、書面をもつての意見や苦情、不安を表せる機会や、訪問時には常に問いかけ、何でも言ってもらえるな関係づくりに配慮している。出された要望や意見は、職員間で話し合われ運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会のゴミ収集やクリーン作戦、敬老会、老人会、近隣の小中学校の運動会等に積極的に参加し、地域との交流を図っている。最近では地域の認知症介護などの相談窓口としての役割も担っている。また非常災害時の対応として、入居者ワッペンをオリジナルで作成することや、地域の協力、理解が得られるよう約1500世帯に回覧版を回すなどの取り組みがされている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「アシステッドリビング(自立支援)、個別対応、家庭的なホーム作り」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やキッチン等に掲示され、職員採用時には必ず理念を伝え、毎月1回のホーム会議や日々のカンファレンスの際も職員間で話し合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のゴミ収集やクリーン作戦、敬老会、老人会、近隣の小中学校の運動会等に積極的に参加したり、定期的にホームの便りを回覧版を利用し情報発信し、地域との交流を図っている。最近では地域の認知症介護などの相談窓口としての役割も担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解し、自己評価は職員の意見を聞きながら取り組んでいる。また、自己のサービスを見直しつつ、サービスの質の向上を図る仕組みとして根付いている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域防災や外部評価の意義、結果、その取り組みなどを報告、話し合いをしている。そこで得られた意見、助言をサービスの向上に生かしている。また、徐々に参加者も増えさらに多角的に意見がもらえるようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市町村の主催する行事には積極的に参加し、交流の機会を設け情報交換をしている。また、ホーム行事への参加を呼びかけ市町村担当者と関わる機会を増やす取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「アット・ホームケア通信」を毎月発行し家族に送付している。また、往診担当医からの健康状態やホームでの入居者の様子、行事予定、行事報告等を写真を交えた紙面にて報告している。家族訪問時には金銭管理ノートにサインを貰っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時等に聞きだすようにし、何でも言ってもらえるよう関係作りに配慮している。出された要望、意見は職員間で話し合われ運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として4つのグループホームを運営しているが、基本的に職員は固定し顔馴染みの職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーションや計画的に実施している人事考課、法人内4ホーム間の交換研修、権利擁護や身体拘束、救命講習など内外問わず積極的に参加している。また、管理者から各職員に対し研修参加の促しをしている。しかし、職員の成長段階に合わせた研修の実施にはいたっていない。		定期的実施されている人事考課の結果を研修計画に反映し、職員の成長段階に合わせた研修計画が作成され、実施されることが望まれる
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームの行事への参加、交換研修会やホーム長連絡会、地域の介護保険事業者のホーム見学等により同業者との交流を図り、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り入居前に本人・家族に見学や体験入居をしてもらい、ホームの雰囲気や職員との交流が図れるよう配慮している。状況によっては自宅や入院先等を訪問するなど、柔軟に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアする側、される側という意識を持たず、職員は学びの心を持ち、食事の支度や片付け、花の手入れ等一人ひとりに得意な役割を持って貰えようとしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から入居前の生活歴・生活環境の聞き取り、入居者との日常会話や回想話・経験談から本人の意向の把握に努めている。意思疎通が困難な入居者には、ケアマネからの情報も併せている。入居者の情報は個人記録に記入し、スタッフ全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者からは常時、家族からは面接・電話等の手段を通じて、気づき・意見・要望を聞いている。1ヶ月毎に職員がケースカンファレンスの中で話し合い、入居者と家族からの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に介護計画の見直しをしているが、入居者の状態変化や家族からの要望が出された際には、随時見直しがされ、新たな計画書を作成している。また、計画書の情報は職員全員で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて他の医療機関への通院を支援している。地域住民に対する事業所としての多機能性として、自宅で暮らす認知症の人を対象に、空き室がある時の緊急入居を出来る限り受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの代表である認知症専門医による、月2回の定期的な往診がある。また、必要に応じた検査や専門的な治療を要する場合は、協力医療機関への受診支援をしている。更に、入居者の希望するかかりつけ医への受診送迎の支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、医師の指示に添い、入居者の口から食物摂取できる範囲で受け入れる方針としている。ホームとしての方針が文書化され、入居者・家族・職員や他の関係者が共通の認識に立ち、支援が行われていくと、さらに良いと思われる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時や衣類着脱時のプライバシーには特に注意し、入居者の尊厳に配慮し、対応している。又、入居者に関する記録等は、所定の場所で保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時にはホームの業務スケジュールを優先することもあるが、買物や散歩等、日々の入居者の希望を出来る限り支援している。個々の暮らしの中で特別な制限はない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー、調理、片付けなどは入居者と共同で行っている。リビングはスペースの制限があるため、職員と入居者が一緒に食事が出来る状況ではないが、今後は、職員が1人でも同席できるようになると、良いと思われる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は週3回で時間帯は14時から16時と決まっているが、朝風呂も含めて、できる限り入居者の希望に添うよう柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや庭木の剪定など入居者の経験や知恵が発揮できる場面を作っている。また、個別の買物等は職員が同行している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、できる限り入居者の希望に応じた外出支援をしている。歩行困難な人も車椅子等を利用し、近隣への散歩や買い物等、外出することを積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全や防犯対策の為、夜間は玄関を施錠しているが、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得て年1回実施している。災害避難時に当ホーム居住者と判るように、ホームのワッペンを作成し、その旨を町内に回覧、周知している。しかし、職員に対して避難誘導経路が周知徹底されているとはいえない。		一般住宅を改造した施設の為、避難通路が多いので、全職員に対する避難誘導経路の周知徹底と、夜間を想定した訓練などが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム外の栄養士の指導を受け、1日当たり栄養摂取は1300kcal、水分は1200ccを目安に、各人に応じたバランスの良い食事を提供し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られている。居間のソファや廊下の縁台で入居者同士が語り合う場面も見られ、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み制限は、火気を除き特に無く、テレビ、時計、タンス、仏壇等馴染の品が持ち込まれている。また、家族の写真を置いたり、思い思いの居室になっている。		